

東海地区 現代俳句協会 会報

第83号

令和7年3月31日
東海地区
現代俳句協会

芭蕉・其角・西鶴

名張市在住 芭蕉研究者 北村 純 一

表題に掲げた三人ですが、まず芭蕉は、十七歳年下ながら早熟の天才で一家を成した高弟其角に敬意を払い、こと細かい指導は控えました。西鶴は芭蕉と同時期に生き、一時期浮世草子作家、今で言う小説家として名を成しましたが、終生俳諧師でした。芭蕉とは面識がなかったが、親友の其角を通じてお互いの情報を得ていたと思われます。三人の「主義」を見ると、芭蕉は「もののあわれ」を重んじる理想主義で専ら人間の善にとどまったが、其角と西鶴は「をかし」を重視する現実主義で、人間の善だけではなく悪にも果敢に踏み込みました。其角は「人は欲と糞の塊」、西鶴は「人は化け物」と喝破し、またともに武家社会を揶揄するなど、伶俐な眼で客観に生きた人でした。

芭蕉は三回挫折しました。小姓として仕え、無類の俳諧好きだった藤堂新七郎家の若様が、二十五歳で亡くなり（芭蕉二十三歳）仕官の道が途絶えます。これが一回目の挫折。のち芭蕉は二十九歳で俳諧師として立つべく江戸に出ます。

芭蕉は江戸で俳諧の修行を積む一方、神田上水の事業に従事し、役人としての出世を目指したが急に免職に。四代將軍家継亡き後、失脚した酒井忠清の娘婿だった藤堂高久も力を失い、そのあおりを受けたためでした。これが第二の挫折。三十六歳のとき三都（京・大坂・江戸）の俳諧師番付表で江戸を代表する売っ子俳諧師となり、「発句なり松尾桃青宿の春」と、我が名を詠み込む勢いのなか、突如深川に隠棲しました。評点料を稼ぎに嫌気がさしたためという説は美化しすぎて、隠棲させられたのが真実と思われます。自発的ならば、「櫓の声波ヲ打つて腸氷ル夜やなみだ」と、境涯を嘆くことはないからです。これが第三の挫折。

西鶴の「美女にちれば愚かにうらむ桜狩」（桜が美女にばかり散って私には散ってくれない、と美女をひがむ）や「しゝくし若子の寢覚の時雨かな」（坊ちゃんや夜中に尿意を催したが、時雨で寒いので便所に行かず、軒先で乳母が「しーしー」と言っておしっこをさせている情景）。い

ずれも五七五の中にドラマがあります。其角の代表句は「夕すずみよくぞ男に生まれけり」。「鯉の義は山吹の瀬やしらぬ分」も其角らしい句。山吹は宇治川を指すが、また小判の隠語。鯉が名物だった浅草川だが、生類憐みの令で鯉の漁が禁止され、かつて山吹の名勝だった宇治川と同様に廃れてしまった。しかし、役人に賄賂を渡せば知らぬ分にしてもらえる、という意。幕府を堂々と皮肉つたり、また自分の撰集に大名と乞食の句を並べるなど、スケールの大きな人物でした。

奥の細道で詠んだ「名月や北国日定めなき」は、月見に訪れたが北陸特有の天気急変で鑑賞できなかった。しかしその無月を楽しむのも一興ではないか、という意。日本人特有の美意識です。月は満月になるまでは未完成、満月から欠けて不完全になります。完成形よりもその過程を重視し、不完全・未完成を重んじる精神が詫びです。芭蕉の人生も、決して俳諧は極められませんでした。生涯未完成不完全であり、詫びの人生でした。そして其角、西鶴と異なるのは、俳諧を和歌と対等の文学に高めるという志を持っていたことです。俳聖といわれるまで研鑽を重ねた姿に私たちは感動するのです。



講師紹介

文春新書『伊賀の人・松尾芭蕉』などを出版、名張市在住の作家・芭蕉研究者。

なつはづき氏 全句講評講座開催さる

十二月一日（日）ウインクあいちにて、研修部長なつはづき氏の全句講評講座が、四十余名の参加で開催された。冒頭の「俳句には三つの傾向がある」一つは共感を求めるもの、二つは意外性を狙うもの、三つは読者を必要としない（理解を求めず提示したイメージに共感してもらう）ものです。など熱演を要約記載しました。



初心の頃「テレビを見て俳句を作ってはいけません」と云われました。映像は誰かの意図で編集されているので、純粹に自分の意志で見たものではありません。どうしても固定観念や先入観に影響されます。私はテレビを見ての作句に反対はしませんが、感情に引きずられず「想像を超える想像」が必要だと思います。

季語が動くと言われることがあります。私は「動いても良い」と思っています。本当に季語が動かなければその読みしかできず世界が広がりません。その季語を置いた作者の意図を汲みとるべきで、作者の目線に立って考えてみてください。道教の儀式として発達した「茶の湯」の教義である不完全性Ⅱ虚を例にとり、俳句も同様に読者を作品に導き入れる為に、余白を敢えて残し詠みは読者に任せ

る。一方で読者は解らないものは調べ、作者の意図を理解し作品に向き合うべきとの話など多様な指摘をいただいた。

広範な傾向を有す全六十六句に関して、三時間を超える講評が為された。説明的になる事や類似性に注意をする。切れ字の配慮に時間経過とか、具体的な表現も求められた。各句への講評は記載しきれませんが、無季語句も含め現俳協会員で評価された十一句を以下に記載した。

退院の荷物に破れ団扇かな 真鍋倭文子
木漏れ日の秋の色して揺れやまず 井上志津子

辻辻に風車立て父恋し 佐合たけし
掛けものは白妙の塔鮎の宿 安藤美佐江

私の骨を探すや芒原 岡田真由美
三度目の単身赴任義虫鳴く 加藤よしはる

天井の低き実家やポインセチア 瀬川 琴女
ベールをむつちり千切る居待月 山内 基成

白露や大きなこの戦火の子 白石喜久子
うたた寝の足裏見せて恋はまだ 石川美智子

速報は「ミサイル」 蠅の生まれけり 菊山 千月



第二十回現代俳句東海大会入選作品

令和六年十一月十七日(日)

★大会賞

今日からは空蟬として吹かれゐる

藤瀬ゆつき



藤瀬ゆつき氏&大西健司会長

秀逸

妻が笑えば笑ってしまう良夜かな

山本 友章

原爆忌数の合はない影法師

中村 誠一

晩夏光ひとりぼっちといふ自由

石川美智子

広重と同じ道行く蝸牛

竹内千賀子

巻尺のへろへろ戻る薄暑かな

村田佐和子

独りには広すぎる部屋水中花

渡邊 淳子

ねむれぬまま雪のにおいの夜があけた

朴 美代子

バーコード探す冬瓜転がして

山内 基成

夏草に埋もれ軍犬軍馬の碑

海野さちこ

終戦日ドロップ缶に骨の音

笠井 保志

ラムネの空瓶ずうっと見ていて不思議

稲垣 豊美

検査着の乳房すなほや秋日和

多氣ひさか

声出せば壊れてしまう秋夕焼

横地かをる

毬栗の重なり合うて傷つかず

鈴木 晴美

鬼やんま真つすぐな眼で飛んでくる

長町 誠司



秀逸受賞の名氏

佳作

立葵瓦礫の中を咲き通す

鬼頭 義和

相寄らず程よきあわい糸とんぼ

渡邊 淳子

白桃の熟れゆくごとき別れかな

石川美智子

秋暑しことばにこころ追ひ付けず

辻 まさ野

来た道を戻りたくない残暑かな

水越 晴子

父の箸少し欠けおり蜉蝣汁

近藤 好子

月満つる人間ずつと欠けしまま

伊藤 政美

夏雲の思ふ形に見えてくる

大掘 祐吉

灯を消してひとりに戻る盆の月

角野 弘子

あの子にみなあげればよかつたさくらんぼ

岡本 千尋

つぶやきはすべて過去形氷菓子

中尾 節子

不登校の子に爆ぜてゐる柘榴かな

村山 恭子

銃口へ詰めたき木の実握りしむ

村山 恭子

慈姑掘る女何時でも若くなる

後藤 馬風

十四歳の廊下の隅の渚かな

西川 幸美

這つて見る月美しき子規忌かな

長谷川阿以

★選者特選作品

伊藤 政美 選

米櫃の底見えてきて夏終る

宮田かつこ

中村 正幸 選

鈴木 晴美

永井江美子 選

ねむれぬまま雪のにおいの夜があけた

朴 美代子

大西 健司 選

教室に蠅の羽音や模擬試験

小林 陸人

武藤 紀子 選

青葉木菟兎太先生呼んでいる

稲葉 千尋

武馬久仁裕 選

レシートを熟読したる獺祭忌

松永みよこ

平賀 節代 選

ポン菓子のボンとあふるる秋祭

政木 真紀

松末 充裕 選
恋ふといふ淋しき動詞水鉄砲
多氣ひさか

小津 由美 選
無花果の裂けてをさなの恐れ闇
赤塚えつ子

前野 砥水 選
夕暮れて大徳利に芒活け
稲垣 嘉子

松永みよこ 選
慈姑掘る女何時でも若くなる
後藤 馬風

有本 仁政 選
カナリアの忘れた月は舟となり
永井江美子

今井 真子 選
シンバルの渾身一打秋ホール
小川 敏子

ひらの浪子 選
いなびかり心に指紋残る夜
中村 誠一

横地かをる 選
凍土のページめくれば戦争
朴 美代子

福林 弘子 選
蟬声をまとひ海へとかへりゆく
岡田真由美

中村 誠一 選
茄子の馬勝手に帰って来いよオヤジ
井上 俊一

村山 恭子 選
鬼灯や口が裂けても言へぬこと
加藤 美名

大西 誠一 選
広重と同じ道行く蝸牛
竹内千賀子

長町 誠司 選
妻が笑えば笑ってしまふ良夜かな
山本 友章

八木茂都子 選
独りには広すぎる部屋水中花
渡邊 淳子

森本 昭子 選
妻が笑えば笑ってしまふ良夜かな
山本 友章

◆東海現代俳句大会は、全九百七十二句に及ぶ多彩な応募を得て、盛大に開催された。またコロナ禍にて長らく中止していた懇親会も、六年二月の新年会から再開二回目となり楽しい一刻を過ごした。



第二十六回 東海地区現代俳句賞



俳句大賞

海野さちこ氏

奨励賞及び佳作各位

一般の部 ◆大賞

「土の色」 海野さちこ

雨上がる春は土からはじまり
春風や親しきものに土の色
けぶる雨見つめてゐたる暮の春
できたての真つ白な雲五月かな
田植え終ふ茶のみ話も歌もなく
白シャツのひとりを降ろしバス発車
山寺の礎の歳月苔の花
奥の院の先になほ奥ほととぎす
一族の墓の見おろす蕎麦ばたけ
一本に落暉をとどめ里の秋
旧暦とふ美しきものけふ白露
神木は一本の樟小鳥来る
菊日和抽斗引けば母のもの
やはらかき布もて母の墓洗ふ
鴉の賛供養のやうに差す夕日
尼寺の鐘は小ぶりや冬ぬくし
淋しくて天辺で鳴く冬の鴉
冬帽子脱げば冷たき耳のあり
振り向かぬと決めたる別れ十二月
ばたん雪尾灯の消えてゆきにけり

◆うんのさちこ

昭和二十年生まれ

〔三重県津市在住、「菜の花」同人〕

思いもよらぬ賞を頂き感謝の念でいっぱい
です。今後も自然や世の中の出来事に真摯に
向き合い、自分なりの言葉で表現しつつ句作
にとりこんでいきたいと思ひます。

奨励賞（抄出十二句）

「二匹のうさぎ」

与語 孝子

新しき光りのとどく名草の芽
音楽のやう幻聴のやう蝶の昼
やさしさの草の記憶のクロイー
薄日さす蜜袋の深眠り
たはむれの風の軽さや夏薔薇
横ずわりして娘らは鮎の頃
枝渡るひかりの蟬の消ゆるとき
花葛はこの世の果ての香を放つ
コスモスのいつも私を揺らしけり
銀木屋だれかをずっと待つてゐる
曼殊沙華愛はいつでも不公平
佗助の静かに誰の手も拒む
(よごたかこ・「無所属」)

奨励賞（抄出十二句）

「この世界の片隅」

菊山 千月

怒りなきばくらはかもめ夏に入る
あなたまで走れば間に合う八月は
マツチングアプリ入れ雨彦の物語
水買ひ占めて僕らの生きる明日
猫という音を拾って鬼城の忌
枯野にあの子はギターを弾いているだろうか
僕は未開封 木犀こぼれても
明日逢えたら寒オリオンあげる
ありふれた過去を悴む手で掬う
泣かない方法を冬林檎に聞く
波音をこぼさぬように春の月
逃げ水や逃げなくてもよかったのに
(さくやまちづき・「韻」)

佳作（抄出八句）

「揚ひばり」

八木茂都子

桜貝拾ふに飽きて波の音
標本の異国の蝶の青光る
春憂ひ自分のために嘘をつき

その上の暗さを知らず揚ひばり
花堤手を繋ぎたき人誘ふ
花冷の急須にたつぷり湯を入れる
もう誰も来ないよ花薬降り
人みんな何かに揺れて春深し
(やぎもとこ・「菜の花」)

佳作 (抄出八句)

笠井 保志

「輪廻する遺伝子」

受精卵ビッグバンなる星月夜
大脳に母の痕跡夜食かな
月白や暗順応す視細胞
嘔みしめて檸檬とどまる味蕾かな
草の香をまとい酸素は肺胞へ
増殖す癌は密かに虫の闇
ボスミン注心拍停止逝く秋や
遺伝子は明日への手紙春を待つ
(かさいやすし・「KIRARA俳句会」)

「五十歳以下の部」

佳作 (抄出八句)

千葉みずほ

「鳥の傷痕」

蝶の影揺れるわたしはタブララサ
はなびらは白い鏡の部屋に落ち
聴くひとから語るひとへと蝶ながれ
あたたかな猫の背骨を花は葉に
くちびるに嘘よみがえるアマリス
夕暮れのシロツメクサに見られる
いつの間に君はとなりの草の花
父の眼に鳥の痕跡萩のこえ
(ちばみずほ・「韻」)

令和六年度東海俳句賞選考経過

事務局・松末 充裕

一般の部三十四編と五十歳以下の部六編の応募から大西会長を含む七名にて選考された。

一般の部の作品は纏まっているとの評価が多かったが、類想感は拭えず評価の

ポイントをどこに置くかで議論が噴出した。最終的に予選評点が高かった上位三作品に絞り順位を決めることとした。何れも確かな句群で「土の色」と「二匹のうさぎ」が同点ながら、二十句の構成の巧さや一句毎の完成度、予選最高得点を考慮して「土の色」を大賞とした。粗削りながらテーマや言葉の選択に独自性のある「輪廻する遺伝子」を佳作とし、佳作賞にも少額ながら賞金を継続した。五十歳以下の部は個性の違う作品が並び、予選の配点もバラけたが、詩性が深く語彙も豊かな点から「鳥の傷痕」を佳作とし、選外の作品にも来年以降の活躍を期待して参加賞を贈ることに決めた。

「選考委員一位の作品」

一般の部

大西 健司「この世界の片隅」

永井江美子「二匹のうさぎ」 与語 孝子 菊山 千月

武馬久仁裕「牛の瞳」 水野 巨海

武藤 紀子「三回忌の母」 丸目 藤二

平賀 節代「揚ひばり」 八木茂都子

今井 真子「土の色」 海野さちこ

有本 仁政「土の色」 海野さちこ

五十歳以下の部

大西 健司「弱音」 紅紫あやめ

永井江美子「鳥の傷痕」 千葉みずほ

武馬久仁裕「鳥の傷痕」 千葉みずほ

武藤 紀子「セブンテンパーソング」 菊山 紗英

平賀 節代「メロン」 亘 航希

今井 真子「セブンテンパーソング」 菊山 紗英

有本 仁政「鳥の傷痕」 千葉みずほ

第二十九回東海地区現代俳句協会

新年俳句大会受賞作品

令和七年二月十六日(日)

佳作

何もせぬ訳にはゆかず落葉焚く

戦争が年老いてゆく生身魂 矢橋 誠一

飛石は安堵のかたち小鳥くる 南川 泰子

追ひかけてまだ追ひつけぬ枯野かな 八木茂都子

もう散るものがない十二月八日 森本 昭子

残業の子に煮詰まりし鰯大根 川合いつ子

見えてゐて遠き対岸初明かり 多氣ひさか

流血をむさぼる大地冬の月 山内 基成

順繰りに甘えてきたる柚子湯かな 松永みよこ

黙考の父の直立樗枯る 宮地 瑛子

人として在るさみしさや鬼やらひ 金子 晴彦

初日の出荷物は軽いほうがいい 奥山 和子

返り花散りてこの世の木に戻る 小津 由実

人として在るさみしさや鬼やらひ 金子 晴彦

元氣であるか綿虫が飛んでゐる 伊藤 政美

永井江美子 選

伊藤 政美 選

中村 正幸 選

人として在るさみしさや鬼やらひ 金子 晴彦

永井江美子 選

伊藤 政美 選

中村 正幸 選

人として在るさみしさや鬼やらひ 金子 晴彦

永井江美子 選

伊藤 政美 選

中村 正幸 選

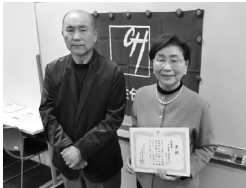
人として在るさみしさや鬼やらひ 金子 晴彦

永井江美子 選

伊藤 政美 選

会長賞

横地かをる氏



優秀&佳作各位



大西 健司 選	あの子のギターはいつも冬北斗	武藤 紀子 選	北風は父のことばかりにけり	武馬久仁裕 選	完成の仮設住宅雪降り	平賀 節代 選	残業の子に煮詰まりし鯽大根	松末 充裕 選	十二月廊下の奥の奥をみる	小津 由実 選	白息の向かいホームの君遠く	前野 砥水 選	冬うらら拭けば機嫌のよい鏡	松永みよこ 選	冬銀河渡れないから目が覚めた	有本 仁政 選	我が影に入つてしまふ冬薔薇	今井 真子 選	残業の子に煮詰まりし鯽大根	ひらの浪子 選	うすらひのしづかに葛藤のかたち	横地かをる 選	やんわりと言葉返して冬うらら	福林 弘子 選	枯れしもの枯れきり空の真青なり
菊山 紗英		永井江美子	宮田登世恵	川合いつ子	横地かをる	岩瀬 恵子	岩田 典子	伊藤 政美	藤瀬ゆつき	川合いつ子	有本 仁政	甲斐由美子	村田佐和子												

中村 誠一 選	会ひに行くのはすぐですよ春隣	村山 恭子 選	もう散るものがない十二月八日	大西 誠一 選	流血をむさぼる大地冬の月	長町 誠司 選	十二月廊下の奥の奥をみる	八木茂都子 選	戦争が年老いてゆく生身魂	森本 昭子 選	吊し柿明るく生きる過疎の村	山口 正恵		永年会員、自薦句 (昭和二十一年生れ)	◆愛知県	霜柱踏みて昭和は百年目	初鏡よく生きたねと語りかけ	砂時計のくひれ通るや去年今年	ペチカ燃ゆ茶房に旧き蓄音機	ワカモレをパンにのぼして小正月	冬満月演技で生きる誠かな	山笑う地球にやさし心と手	訪問や受験子の母二重マスク	岡崎 眞木 恵子	貝の口ふつとゆるみて春隣	傷つくも癒すも会話桜餅																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
加藤 克治		森本 昭子	山内 基成	横地かをる	矢橋 郁子																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	</

◆三重県

死後は即他人の生前さえづれる
新駅や乗客のみる鉢の梅

亀山市

藤原 紅

受験子の弁当箱へチロルチョコ

縫初は夫のゼッケン15番

多気郡

瀬川 琴女

たなごころほどの日溜り冬の蠅
天寿とは主治医まかせや日向ぼこ

鈴鹿市

岩間つとむ

戦争が蝕むかたち朴落葉

松阪市

渋谷むつこ

滴りの大海原にあこがれる

不意に会う確率たぶん冬の虹

伊勢市

西川 幸美

いわし雲ずつと開けないドロップ缶
通り土間小鳥のやうな春の風

多気郡

きのえのき



大会参加の新会員

※到着順にて掲載、未着は氏名のみ紹介。
投句案内締切後に入会の方は次年度に
掲載予定。投句の失念に注意を！



青年部の活動案内

青年部員の様々な活動を紹介します。

岐阜県の後藤麻衣子さん(蒼海所屬)
句友の内野義悠さん、牧野研さんと一緒に
ネットプリント形式で年に四回「メダ
ルク」を発行しています。ネットプリン
トは期間限定でコンビニで購入して、印
刷することができ、出版の新たなスタ
イルとして最近注目が高まっています。
俳句と季語を感じさせるイラストとの
コラボレーションが美しく、カレンダー
として飾っても楽しめます。

愛知県の若林哲哉さん(「南風」同人)
はNHKカルチャー名古屋教室で、「コ
トバで遊ぶ俳句入門」の講師を務めてい
ます。(第一日曜日・13時から15時)毎
回句会形式で、楽しみながら俳句を学べ
る講座です。

次回の青年部吟行句会は九月二十日
(土)です。テーマは来年の愛知県開催
となる全国大会に向けて、「全国、世界
に発信できる名古屋の推しポイントを探
せ!」です。新幹線からアクセスしやす
い名古屋のみどころ再発見の句会に、ぜ
ひご協力御参加ください。詳細は六月発
行予定の会報84号に掲載いたしますので
予定をあげておいてください。
また二月より巨航希さん(楽園)同人
を青年部副部長として加え、一層充実し
た活動を推進してまいります。

問合申込

東海地区現代俳句協会
青年部長 松永みよこ

tokai.genhai.seinenbu@gmail.com
TEL 090-4549-9583

青年部つばめ句会報告

青年部を卒業した方で、まだ経験の浅
い会員の勉強・交流を目的としています
が、青年部も含め広く参加を募っていま
す。初心者や会員外もぜひ御連絡を。
ほぼ毎月一回、土曜の午後に名古屋の
鶴舞で句会を開催。

これまで十三回開催、毎回十数名(二十
代〜八十代)が参加。新規の方も増えて
活発に活動中。

■第十一〜十三回つばめ句会の優秀句

さういふ奴だつた除夜の鐘とは

冬薔薇の麻酔かかりしままに鳴く

言へぬから冬青草として生きる

ほんたうのきれいはさみし冬青空

戦前に生れし女雛のそののちを

寒鮒や竹竿でゆく漁夫の舟

つばめ句会予定

(会場未定/13時〜16時半)

第十五回 四月十九日 (土)

第十六回 六月二十一日 (土)

第十七回 七月十九日 (土)

第十八回 八月二十三日 (土)

会費 五百円(当日徴収)

三句(当季雑詠)短冊に書いて持参

問合申込

東海地区現代俳句協会
青年部長 有本仁政

hitomasa@vtd.biglobe.ne.jp
TEL 090-4850-0264

第十七回 鈴木しづ子顕彰会

小中高いのちの俳句大会
全国大学生俳句選手権大会

■小中高生のいのちの俳句大会表彰式

日時 9月23日(祝)午後1時より

会場 犬山市民文化会館・大ホール

応募 規定用紙又は原稿用紙

俳句三句、氏名、住所、電話

学校又は結社名、出席可否記載

未発表作、類似二重投句は取消

7月20日までに送付

表彰 いのちの俳句大賞、犬山市長賞

犬山市関連各組織、中日新聞社

東海現代俳句協会賞、他多数

東海現代俳句協会会長、他役員

選者 犬山市大字羽黒字二日町57番

送付 鈴木しづ子顕彰会事務局

TEL 0568-67-0325 宮地瑛子宛

■第七回全国大学生俳句選手権大会

日時 9月23日(祝)午後2〜5時

会場 犬山市民文化会館・入場無料

期間 七月二十日までに送付

兼題 「友」又は自由題

問合 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-16-29 4階

全国大学生俳句選手権大会事務局

TEL 052-951-3852

Fax 052-962-3256

メール obo@daigakuhaiku.com



ライブ配信あり



区分	日時	場所	令和七年度事業報告	
			内	容
吟行句会	5月18日(日) AM9:30～PM4:00	岐阜担当 関ヶ原 ふれあいセンター	当日囃目二句 参加費無料 会員外も参加可 (新しい人を誘いこれを機に入会を勧めよう) 詳細は八頁記載	
第二十一回 現代俳句東海大会	11月30日(日) PM1:00～PM4:30 PM5:00～懇親会	ウインクあいち 懇親会場所未定	事前投句 二句一〇〇円 何句でも応募可※会員外も参加可周知の人に勧めて下さい。高校生にも引き続き呼びかける。 講演講師 中山圭子(虎屋文庫主席研究員) 「和菓子歳時記」	
第二十七回 東海地区現代俳句賞	募集期間 総会終了後～ 10月31日迄	会員諸氏の応募をう 五十歳以下の部あり	未発表二十句・題をつけ事務局まで郵送 参加費無し・現代俳句協会会員に限る 住所〒467-10004 名古屋瑞穂区松月町1-11-209 松永充裕方/東海地区現代俳句協会 TEL 0904769214684 メール mmatsusue@yahoo.co.jp	
俳句賞選考委員会 および理事会	12月11日(木) AM11:00 PM4:00	ウインク あいち	賞金として俳句賞には三万円、奨励賞に二万円、佳作二万円進呈。ふるって応募して下さい。	
青年部 吟行句会 第八回ジャズ句会 つばめ句会	吟行9月20日(出) ジャズ11月1日(出) つばめ句会10月 蒼青年部合同開催	吟行/伏見近辺 ジャズ句会/納屋橋 「モノ・ペトロ」 つばめ句会 鶴舞公会堂	吟行句会の詳細は6月会報にてお知らせします。 ジャズ句会・会費千円+ドリンク代要す・定員五十名 吟行会場は伏見の長内寺会館を予定。詳細は青年部長 松永みよこまで問合せ下さい。(現在青年部員五十名 を越え増加中/活動内容は本紙六頁に記載)	
全句講評講座	ウインクあいち	8月9日(土)講師 堀田孝何氏/詳細は本誌八頁	吟行句会の詳細は6月会報にてお知らせします。 ジャズ句会・会費千円+ドリンク代要す・定員五十名 吟行会場は伏見の長内寺会館を予定。詳細は青年部長 松永みよこまで問合せ下さい。(現在青年部員五十名 を越え増加中/活動内容は本紙六頁に記載)	
第十七回 鈴木しづ子顕彰会 小中高生いのちの俳句大会 全国大学生俳句選手権大会	9月23日(日) PM1:00～PM2:00～5:00	犬山市民文化会館 名鉄小牧線 「羽黒」下車	第七回小中高生いのちの俳句大会・第八回全国大学生 俳句選手権大会の支援予定 いのちの俳句表彰を大学選手権の前に開催 詳細は会報本紙六頁に記載	
令和七年度総会及び 第三十回 新年俳句大会	令和8年 2月22日(日) PM1:00～	ウインク あいち	総会一時十五分～二時 新年俳句大会一時十五分～四時四十分 事前投句二句会員のみの投句無料 (投句用紙は十一月末会報に同封)	
令和七年度新会員	随時募集 年会費¥12,000 入会金¥5,000 (後日返却)	学生及び 地区会員 別途優遇	6年度新会員 愛知 20名 三重 6名 岐阜 4名 上記は七年一月(六名)の新会員を含む。 詳細は五頁に各位の近作と共に掲載した。 投句締切り後入会の方は次年度掲載としま す。	

理事会 随時(必要に応じて) 会報は三月・六月・十一月

令和6年度会計予算(案) & 6年度会計決算報告書

東海地区現代俳句協会

令和7年2月16日

(単位:円)

令和7年度会計予算(案)

東海地区現代俳句協会
令和7年1月1日
(単位:円)

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	140,875	事業費	
助成金	500,000	東海俳句賞	130,000
特別会計より	300,000	賞品代、諸経費	
維持会員費	2,000	交通費等	
		吟行句会	80,000
		会報発行	250,000
		総会・新年俳句	100,000
		理事会	50,000
		事務局関係費	250,000
		通信費、会場費、印刷諸経費等	
		雑費	8,000
		予備費	74,875
収入合計	942,875	支出合計	942,875

令和6年度会計決算報告書

自 令和6年1月1日
至 令和6年12月31日
東海地区現代俳句協会
令和6年12月31日
(単位:円)

【収入の部】			
項目	予算	実績	増減額
助成金	550,000	589,200	39,200
雑収入	0	27	27
前年度繰越	63,591	63,591	0
特別会計入金	300,000	300,000	0
維持会員費	2,000	2,000	0
合計	915,591	954,818	39,227
【支出の部】			
項目	予算	実績	増減額
東海俳句賞	130,000	124,904	▲5,096
吟行句会	70,000	77,232	7,232
会報発行	250,000	227,724	▲22,276
総会・新年俳句	100,000	54,000	▲46,000
理事会	50,000	43,656	▲6,344
事務局諸経費	250,000	250,000	0
雑費	5,000	6,427	1,427
助成金返金	0	30,000	30,000
予備費	60,591	0	▲60,591
合計	915,591	813,943	▲101,648

収入954,818-支出813,943=差引次年度繰越金140,875円

上記の決算報告書は適正に処理されている事を認める

令和7年1月6日

会計監査

今村真子

関ヶ原古戦場吟行句会のご案内

ゴールデングローブ賞をとり話題の「SHOGUN将軍」の舞台である関ヶ原一帯。徳川家康最後陣跡、関ヶ原古戦場記念館、決戦地、笹尾山石田光成陣地跡、関ヶ原歴史民俗学習館など自由散策。

日時 令和7年5月18日(日)
9時半～16時(雨天決行)

場所 関ヶ原ふれあいセンター
Tel 0584(43)2233

・受付 9時半より
・投句締切 12時(時間厳守)
・当日囁目句 二句

昼食

・昼食終了後13時より句会開始
関ヶ原古戦場記念館別館にレストラン&カフェ、ふれあいセンター内の「ふうせん」など、各自で済ませてください。

交通

JR関ヶ原駅より徒歩10分
無料駐車場あります。



※吟行句会及び全句講評講座共に、申し込みは準備の都合上四月末迄に左記へ連絡をお願いします。(会員以外も歓迎、吟行は参加費無料、全句講評講座は会費千円)

事務局 Tel 467-0004 名古屋瑞穂区松月町1-11-208
Tel 090-14792-4684 メール nmatsusue@yahoo.co.jp
松末充裕

第二回全句講評講座のご案内

堀田希何氏を迎え、標記講座を開催いたします。定員制ですので応募下さい。

堀田希何氏略歴

俳誌「楽園」主宰、芸術選奨文部科学大臣新人賞、現代俳句協会賞、芝罘器男俳句新人賞、齋藤楨爾奨励賞、句集「亞刺比亞」「星貌」「人類の午後」。現代俳句常務理事、国際俳句協合理事、「NHK俳句」選者、兜太現代俳句新人賞選考委員。短歌は春日井健に師事、中部短歌界同人ほか。



開催要項

応募 参加希望者は四月末日迄に事務局、松末迄にメール又は葉書で申込みください。定員を超えた場合は抽選。五月中旬までに抽選結果をお知らせします。

日時 8月9日(土)午後一時～四時半

会場 ウィンクあいち二〇四号室

投句 一人二句(既存句可)／一人千円

傍聴 事前応募／一人五百円

※傍聴のみも投句兼もOK

第二十七回東海地区現代俳句賞募

現代俳句界に新風を吹き込み、東海地区俳句活動の進展と充実を図るため、左の要領で作品を募集します。

応募作品 雑詠二十句(未発表に限る。受付後の作品変更は不可)

○B4縦書(紙サイズ厳守)

四〇〇字詰原稿用紙二枚使用

○一枚目「題名」「郵便番号・住所・電話番号・俳号(氏名)・年齢」

二行置きに記載

○二枚目 一行目から作品を並記し、二十行目までに二十句収める。

※応募無料。応募原稿は返却しない。

応募資格 東海地区現代俳句協会会員

締め切り 令和七年十月三十一日(金)

送稿先 Tel 467-0004

名古屋瑞穂区松月町1-11-209

松末充裕 方

東海地区現代俳句協会事務局宛
「東海地区現代俳句賞」朱記のこと
Tel 090-14792-4684

メール nmatsusue@yahoo.co.jp

必記事項 年代別選考の為、応募用紙に年齢と仮名遣いを忘れずに。

顕彰 東海地区現代俳句大賞一名

賞状および賞金三万円

・奨励賞・佳作 若干名

賞状／副賞一〇・二万円

入賞発表 ※定例総会席上にて授賞式

選考委員 顕彰後発行する会報紙上

会長が委嘱する地区役員

訃報

神谷きよ子(愛知県) 令和六年一月
小川もも子(愛知県) 令和六年一月
近藤 綾子(愛知県) 令和六年三月

東海地区現代俳句協会役員一覧

名誉顧問 後藤 昌治

顧問 橋本 輝久 伊藤 政美

会長 中村 正幸

副会長 大西 健司

武藤 紀子(愛知担当)

武馬久仁裕(岐阜担当)

平賀 節代(三重担当)

事務局長 松末 充裕

経理部長 小津 由実

広報部長 前野 砥水

青年部長 松永みよこ

〃 副部长 亘 航希

蒼年部長 有本 仁政

会計監査 今井 真子

理事 ひらの 浪子 福林 弘子

中村 誠一 村山 恭子

大西 誠一 長町 誠司

八木茂都子 森本 昭子

顧問 伊藤 政美

副会長 永井江美子

評議員 武馬久仁裕 大西 健司

平賀 節代 小津 由実

武藤 紀子 福林 弘子

有本 仁政 松末 充裕

※横地かをる氏勇退／後任に亘航希氏

東海地区現代俳句協会会報 第八十三号

令和七年三月三十一日発行

発行者 大西 健司

編集者 前野 砥水

印刷 名古屋市中村区猪之越町三十一-五

事務局 事務局長 松末 充裕

名古屋瑞穂区松月町1-11-209